
150話 黄粱一炊の夢

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

150話 黄梁一炊の夢

【Zコード】

Z7806P

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

ショートショートです。さつきまでお母さんと一緒にいたはずのボクは、気がついたらなにもない白い部屋に連れてこられてた。こんな話を書いてほしいとのリクエスト作品です。

(前書き)

こんな話を読んでみたい。と、リクエストをいただきましたもので
す。

なにもなこ由こ歸國。

わいああでもぬれんと一緒にしてたはずなのこ、仮がつこたひの
歸國に連れてこられた。

「お兄ちゃんだわ！」

「おぬれ～そ」

返事はない。

「おぬれ～そー。」

おハゼつ返事しつくれなこ。

「おぬれ～そー。おぬれ～そー。ボク！」

こへり聲 そドヤ、おぬれそ返事をしつくれなこ。

「アーリーのカ～」

「お兄ちゃん そアーリー。お兄ちゃんなんだー！」

「お兄ちゃん そアーリー。お兄ちゃんなんだー。」

「分からぬ。オレも氣がついたりおぬれそばぐれてた。大丈夫
か？ ケガはないか？」

「う、うん。大丈夫みたい」

お兄ちゃんが近くにいてくれて、とっても安心したけど、それで
もしにいがどこか分からないまま、何日か過ぎた。

飲み物や「はんは、部屋にあつた丸い小さな穴からも「らえたけど、
トイレスは部屋のすみにしなくちゃならなくて、臭い「一オイがつらい。

ある日、お兄ちゃんがいる部屋のまづから、悲鳴が聞こえてきた。

「痛いよ、痛い！ 離して！ 助けて！」

「お兄ちゃん！ どうしたの？ 大丈夫？ お兄ちゃん！」

だけど、それっきり声はしなくなつた。

どうしたんだろう。

怖い。

その日はお兄ちゃんが帰つてくるのをずっと待つてたけど、いつ
までたつても帰つてこない。

お兄ちゃん、どうなつたんだろう?
お母さんはどうしたんだろう?

何日たつてもお兄ちゃんは帰つてこないし、お母さんがどうなつたのかも分からぬ。

ボク、なにか悪い」としたのかな?

もう悪いことはしません。
ずっとずっとこの子でいます。

だからもう一度、お兄ちゃんをお母さんにおわせてくれださ。

どうか、どうかお願いします。

「今度はこいつにしようつか」

目が覚めると、白い服をきた人がボクを見ながら手を差し出しつた。

だけどそれは、助けてくれる手なんかじゃない。

助けて!

助けて!

助けて!

必死で逃げたかったけど、白い部屋からは逃げられなくて、ボクはすぐに白い服の人につかまり、無理やり体をつかまれ、持ち上げられた。

「痛いよ、痛い！ 離して！ 助けて！」

「今日は新入生のための基礎知識として、マウスの解剖をします。白い服の人たちの前で話す人が、なにか言つてゐるけど、ボクには分からぬ。」

「なあ、 麻酔しなくていいのか？」

「いらないだろ？。どうせこいつ死ぬんだから」

白い服の人が、ボクの手足を固定して鋭いメスをかざす。

イヤだ！

助けて！

痛い！

痛い、 痛いよお！

「これこれ、マウスは大切にしなさい。
君たちの単位習得のための尊い犠牲になつてくれるのだから」

前で話してた人が言つたことが、なんのかは分からぬけれど、白い服の人¹が大きな注射を打つて……。

刺さつた針は死にそぐくらい痛かつたけど、だんだん痛みがなくなってきた。

お母さんも、お兄ちゃんもこんな目にあつたのかなあ。

だつたらボクも、もうすぐ2人に会えるかな……。

「そんな夢を見たんだ」

「なんだそれ？ 勉強もしないくせに、夜更かししそぎじやねえの？」

「ふわあ～、そうかもな。

ねむい、今日は解剖の研修？」

「ああ、マウスの解剖だつてよ」

「そうちつたな。オレ今年、ウミガメの解体のバイトやつたんだ。あれつてマウスとほとんど同じ位置に内臓があるんだぜ。

今さらマウスの内臓の位置確認したつて、人間とは違うんだからつまんねえだけだな」

やがて、文句を言つていた学生の机にも、一匹のマウスが連れて

「…」
…られる。

「悪い。オレ、今回バスする」

「なんだ、怖いのか？」

「さっきの夢が悪かつたみたいだ。

ブルブル震えてるこいつが、お母さんとか書いたらどうやつ
づらい」

「考え方だつて」

一人がそう言つて教室から出て行つたあと、単位獲得のためと割り切つた者たちは、躊躇しながらも鋭いメスをマウスの腹に突き立てる。

もともとこの星に暮らしていたマウスたちが使用していた年号に換算すれば、西暦3249年。

地球は巨大な異星人の支配下におかれていた。

(後書き)

時間はかかりますが、リクエストがあれば受け付けます。仕事が年中無休なので、ほんとに時間がかかります。すみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7806p/>

150話 黄梁一炊の夢

2011年1月4日03時27分発行